第２１５号

市事研会報 おおさか翔

令和元年８月 16 日　発行　大阪市立小中学校事務研究会　会長　板谷　知佳　編集　同事務局

ホームページアドレス：http://www.y1.x312v.smilestart.ne.jp/

第 26 回 大阪市立小中学校事務研究大会

次代へつなげる学校事務を築く

～ともに語り、創造する　新時代の魅力ある学校～

令和元年９月 19 日（木）　13：30～

大阪市教育センター　２階　講堂

13：10	13：30	14：00	15：15	15：30　　17：00
受　付	開会行事	研究発表	休　憩	パネルディスカッション

≪研究発表≫

研究部では昨年度より、これまで以上に積極的・主体的に学校経営に参画するため、学校経営基盤の一つである「学校財務運営」について研究を進めてきました。とりわけ、平成 13 年度末に発行し、平成 20～21 年度に改訂を行った「学校事務ハンドブック・財務運営編」を今の時代に即した内容へと改訂することをめざし研究を重ねてきました。

昨年度の研究大会では、ハンドブックの「解説編」部分について、「これからの財務運営モデルについて」と題し発表を行いました。そして発表後は、引き続き年間の財務運営サイクルについて検討や協議を進め、それを基に研究部員が各所属校で実践を行ってきました。

今年度は、「財務運営サイクルの実践と検証について」と題し、研究部員の実践報告とそれに対する検証を踏まえ、経験年数を問わず、どの所属でも標準的な財務運営を行うためには、どのような財務運営サイクルが効果的で効率的であるかについて発表を行います。皆様のご参加をお待ちしております。

≪パネルディスカッション≫

「大阪市の学校事務の現状とこれからを考える」をテーマとし、右記の方々をパネリストとして迎えパネルディスカッションを行います。

近年、若年層や単数配置校の急速な増加により、これまで積みあげてきた経験の継承やこれまで以上に自律的で安定した学校事務を、どのように行っていくのかということが喫緊の課題となっています。また一方で、学校における働き方改革では、管理職や教員の負担軽減に向け、学校事務職員に対する期待や関心が高まっています。

≪パネリスト≫

≪コーディネーター≫

パネルディスカッションでは、大阪市が進める学校間連携の展開のなかで、現場の学校事務職員が抱えている課題や不安を解決し、より一層、資質向上を図るための相互連携機能や、学校長の監督のもと、学校マネジメントにおける中核の一端を担うためには、どのようにして学校経営へ積極的・主体的に参画していくことが必要なのか、会場の皆様とともに考えていく機会になればと思っています。また、文部科学省や全国的な情報もお話しいただく予定です。是非ご参加ください。

大阪府公立学校事務研究会　第 75 回研修講座

「学校納入金の未納対策を考える Part2 ～滞納整理･モチベーションコントロール実践編～」

７月 12 日（金）アウィーナ大阪において、寝屋川市　経営企画部　都市プロモーション課　係長　岡元　譲史　様を講師に「学校納入金の未納対策を考える　Part２　～滞納整理・モチベーションコントロール実践編～」と題し、大阪府公立学校事務研究会研修講座が開催された。昨年度の研修講座の内容を踏まえ、今年度は学校給食費や学校徴収金の滞納者である保護者との納付折衝に関することや、自身のモチベーション管理について、より実情に即した内容をテーマにお話をしていただいた。はじめに、学校現場での学校納入金の回収の実情について、調査権限や強制執行権がないということは、滞納者に納付する意思がなければ未納が解消されないということである。そこで、滞納させないためには『人は「当たり前」のことには怒らない』という心理を活かして、『払うことが「当たり前」』という意識を持たせること。さらに、「滞納＝不快」というイメージを持たせることで、「不快を避けたい」と思う人の心理を利用し、滞納となった場合でも早期解消につなげることができる。そのような環境を学校として整備できるように、滞納整理業務は担当者一人が抱えるのではなく、管理職等と情報共有し対応策を講じることが必要であると述べられた。次に、滞納整理業務に対するモチベーションを上げる大切さについてご自身の経験を基に述べられ、滞納者との折衝時に衝突した場合は、相手の言葉を正面から受け止めるのではなく、状況把握・調査分析等により客観的視点を持ち、「傷つく」のかどうかは自分で選択できるという考えを持つことが重要である。そうすることで、自己評価を落とさず「できる」自信が高まり、滞納整理業務に対する苦手意識や葛藤をなくすことにもつながるとのことであった。

最後に、「戦略的納付折衝（実践編）」として、滞納者に対して実際にどのように対応すれば良いのかを説明していただいた。基本姿勢を「対応はソフトに、要求はハードに」とし、①衝突を避けるためにあくまでも低姿勢で対応を行うが、伝えるべきことは毅然とした態度でしっかりと伝えること、②文書での催告では、滞納が続いた際に訴訟等の可能性がある旨を示すことや、「滞納者の不利益」を分かりやすく伝えるなどの工夫をして自主納付を促すこと、③電話での対応の場合は、お互いの表情が見えないことにより感情の行き違いが生じる恐れがあるため、深い議論は避け履行の確認や納付日の約束をするなど、簡潔に事務連絡を行うことが望ましいこと、④対面での折衝時には達成すべき目的のため「戦略」の観点が必要であるとし、相手への尊重の気持ちや主導権の握り方、想定力・説得力のある話法、情報収集や知識の蓄えなどの「戦略」を身に付けて自信を持って折衝に臨むことで、滞納整理業務を「嫌な仕事」として捉えるのではなく、モチベーションを管理しながら自分の役割を果たすことができると述べられた。

まとめとして、アインシュタインが人類最大の発明と呼んだ「複利」を引き合いに出し、毎日１％の努力を積み重ねた場合と、毎日１％努力を怠った場合とを比較すると、１日では１％というわずかな違いであったとしても、１年後には莫大な数字の差が出る。このことから、大切なのは「微差の積み重ね」であり、私たちが行う業務でもすぐに成果が出ないからといって諦めずに、小さな努力でも積み重ねていくことによって、将来的にはあらゆる可能性と価値があると述べられ、講演を締めくくられた。

編集後記　開催時期が変わってから２年目となった今年度の研究大会。実行委員会では、夏休み中も大会当日に向けて準備作業を進めております。学校行事も多く慌ただしい時期での開催となりますが、多くのみなさまのご参加を、当日会場にてお待ちしております。（Ｆ）